科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
210008	X-01-A-1-210008	2	後期	【１年次生】国際学部国際文化学科	基礎	選択	１年
				【１年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	１年
授業科目	担当教員			【２年次生以上】国際学部国際文化学科	基礎	選択	１年
国際経済学	安藤　潤			【２年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	１年
				【１年次生】経営情報学部経営学科	基礎	選択	１年
				【１年次生】経営情報学部情報システム学科	基礎	選択	１年
				【２年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	基礎	選択	１年
				【２年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	基礎	選択	１年

授業目的

この科目の目的は、国際経済学の基礎理論と、基軸通貨ドルを中心とした戦後の国際経済史を学び、これらをベースとして世界経済・各国経済の現状、その問題点と背景について理解を深めること、そして情報文化学部と国際学部のディプロマ・ポリシーの一部を満たすことである。

各回毎の授業内容

第１回
【授】イントロダクション
【前・後】【予・復習に 4 時間】図書館で本講義科目の指定図書を探し、実際にどのようなことを学ぶのかイメージをもって出席することが望ましい。

第２回
【授】第 2 次大戦後の国際貿易・金融システム①：ブレトンウッズ体制の誕生
【前・後】【予・復習に 4 時間】現代アメリカ論」を履修済みの学生は戦後の国際金融の歴史を復習しておくことが望ましい。そのほか、[1]第 1 章など。授業後は[3]1Ⅱなどで補足しておくのが望ましい。

第３回
【授】第 2 次大戦後の国際貿易・金融システム②：ブレトンウッズ体制の崩壊とスミソニアン協定
【前・後】【予・復習に 4 時間】第 2 回と同じ。

第４回
【授】第 2 次大戦後の国際貿易・金融システム③：1980 年代の国際政策協調とその終焉
【前・後】【予・復習に 4 時間】事前学習は第 2 回と同じ。授業後は[3]1Ⅱ3 などで補足しておくのが望ましい。

第５回
【授】現代の国際貿易①：GATT/WTO
【前･後】【予･復習に 4 時間】事前学習は第 2 回と同じ。授業後は[3]7Ⅰ,Ⅱ、[4]第 11 章 71,72,73 などで補足しておくのが望ましい。

第６回
【授】現代の国際貿易②：日本の貿易構造、貿易理論
【前・後】【予・復習に 4 時間】[1]1.5,1.6、4.1,4.2、[2]第 1 章、第 2 章、第 3 章 3－1、第 4 章 4－1、[4]第 2 章 7,8,16。授業後は[3]5Ⅱ、Ⅲなどで補足しておくことが望ましい。

第７回
【授】国際収支表①：国際収支表の仕組み、経常収支決定理論
【前・後】【予・復習に 4 時間】[1]第 11 章、[2]第 8 章、第 11 章、[4]第 7 章、第 8 章 56,57 のいずれかを参照。授業後は[3]3Ⅱなどで補足しておくのが望ましい。また、日本銀行のウェブサイトで日本の国際収支統計を閲覧することを薦める。

第８回
【授】外国為替市場①：外国為替市場の仕組み、様々な外国為替相場制度
【前・後】[1]第 12 章 12.1,12.2,12.3、[2]第 9 章 9－1,9－2、[4]第 8 章 47,48 のいずれかを参照。授業後は[3]2Ⅰ,Ⅱなどで補足しておくことが望ましい。

第９回
【授】外国為替市場②：外国為替相場決定理論
【前・後】【予・復習に 4 時間】[1]第 14 章、[2]第 10 章、[4]第 8 章 52,53 のいずれかを参照。授業後は[3]2Ⅲなどで補足しておくことが望ましい。

第１０回
【授】地域経済統合①：地域経済統合のメリット、WTO と地域経済統合、地域経済統合発展の 5 段階
【前・後】【予・復習に 4 時間】[1]第 10 章 10.1,10.2。授業後は地域経済統合とはどのようなことかを具体的に説明できるようにしておくこと。

第１１回
【授】地域経済統合②：FTA と EPA、ＦＴＡの経済効果、ＴＰＰ
【前・後】【予・復習に 4 時間】[1]第 11 章 10.3,10.4（グラフを用いた理論的解説はとばしてよい)。授業後は日本政府が現在どこと FTA,EPA を締結しているのか、あるいは締結しようとしているのか経済産業省などのウェブサイトで探して調べておくこと。また、TPP については新聞記事検索で現状を把握しておくこと。

第１２回
【授】地域経済統合③：世界の地域経済統合と地域経済統合発展の 5 段階
【前・後】【予・復習に 4 時間】世界の地域経済統合を新聞記事検索などで調べておくこと。

第１３回
【授】地域経済統合④：EU
【前・後】【予・復習に 4 時間】EU の歴史については駐日欧州連合代表部のウェブサイトで調べておくこと。EC、EU 拡大の歴史を把握しておくこと。将来的には「現代ヨーロッパ論」を履修するのが望ましい。

第１４回
【授】地域経済統合⑤：単一通貨ユーロと「ユーロ危機」
【前・後】【予・復習に 4 時間】「ユーロ危機」が発生した 2010 年 9 月以降の新聞記事検索をし、いくつかの記事に目を通しておくこと。欧州通貨統合についても調べておくことが望ましい。

第１５回
【授】まとめ
【前・後】【予・復習に 4 時間】配布済みプリントでこれまでの授業内容を振り返っておくこと。

第１６回
【授】定期試験
【前・後】【予・復習に 4 時間】ノートと配布資料を中心によく勉強して臨むこと。

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							80
小テスト・授業内レポート							20
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

定期試験を 80%、任意でとるコメントカードの提出回数・内容を 20%として成績判定を行う。成績は本学の基準に従う。合格者数、平均点などはポータルや掲示にて公表し、講評を加える。

教科書参考書

教科書は指定しない。
参考書は指定図書すべて。ただし、1 年生も履修することを考えて以下の図書を主要参考書とするのでコピーするなどして予習・復習に活用してほしい。もっとも国際経済学のテキストは多数出版されているので、もし下記図書がなくても他の図書の該当箇所を活用すること。
[1]大川昌幸『コア・テキスト　国際経済学』新世社
[2]澤田康幸『基礎コース　国際経済学』新世社
[3]伊藤元重『ゼミナール国際経済学』日本経済新聞社
[4]多和田眞・近藤健児編著『国際経済学の基礎「100 項目」』創成社

受講に当たっての留意事項

「現代アメリカ論」「経済学（マクロ)」を履修していることが望ましい（あくまで「望ましい」のであって条件ではない)。私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。授業中は歩き回らないこと。携帯電話･PHS の類は必ず電源を切ってカバンなどにしまっておくこと（机の上には出さないこと)。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。数式は極力避けるが、グラフは講義内容の理解を深めるために複雑でないものを用いる。全出席・無遅刻が大原則。

学習到達目標

この授業内容をベースとして、円高・円安、ドル不安、欧州経済危機といった新聞の国際経済欄や国際経済に関するニュースに関心を持ち、それらを理解し、また自らの考えを述べることができるようになること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習